

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『一人ひとりのいのちの輝きを大切に』を合言葉に、すべての子どもたちの自立と社会参加をめざし、学校・保護者・地域や関係機関との連携を図り、子どもたちの障がいや発達の状態に応じた専門性の高い教育活動を行う学校をめざします。その実現のために、以下の4点を重点とした学校経営に取り組みます。

- 1. 児童生徒の一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動をすすめる学校
- 2. 支援教育に関する高い専門性に基づく教育をすすめる学校
- 3. 保護者や地域に信頼される開かれた学校
- 4. 児童生徒の生命を慈しみ人権を守る安心で安全な学校

2 中期的目標

1. 一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動の推進

- (1) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自己実現や社会参加を促進する。
- (2) 学部間の連携を深め、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた※キャリア教育等の充実を図る。
※キャリア教育：すべての児童生徒の願いに基づいて、ライフステージや発達段階に応じた課題や役割を果たすことで、意欲や生きる力を身につけ、社会参加と自立および豊かな生活をする力を育む
○教職員向け学校教育自己診断におけるキャリア教育に対する肯定的回答率については、令和8年度には85%以上とする。
(R4 76.1%, R5 85.3%, R6 92.2%)
- (3) 「個別の教育支援計画」の活用による教育活動の充実を図る。
○保護者向け学校教育自己診断における「個別の教育支援計画」に関する肯定的回答率については、令和8年度には90%以上とする。
(R4 84.8%, R5 88.5%, R6 90.8%)

2. 支援教育に関する高い専門性と授業力の向上

- (1) 新学習指導要領に対応した教育課程を実践する。
(シラバス作成に関する肯定的評価(教員) R4 87.3%, R5 82.9%, R6 94.6%)
- (2) 様々な児童生徒のニーズに対応できる専門性や授業力の向上を図る。
- (3) 教育環境 (ICT 機器・自立活動に関する機器・生涯スポーツ器具・スヌーズレンルームなど) を整備し、それらを活用した指導内容の充実を図る。
- (4) 効率的・機能的な運営組織や業務の見直しを図りながら、教員の働き方改革及び業務の負担軽減を推進する。
○職場ストレスチェック総合健康リスク値を令和8年度に向け府立学校全体値(98)以下を維持する。(R4 102, R5 96, R6 96)

3. 保護者や地域に信頼される開かれた学校づくり

- (1) 学校情報の積極的な発信に努める。特に学校ホームページの内容のスピーディーな更新と地域への広報活動の充実をめざす。
(学校ホームページに関する肯定的評価(保護者) R4 91.7%, R5 90.5%, R6 95.4%)
- (2) 地域における支援教育の専門性向上のため、リーディングスタッフを中心としたセンター的機能の充実を進める。
(地域支援に対する肯定的評価(教員) R4 94.0%, R5 92.2%, R6 94.6%)
- (3) 校内支援の充実のために校内体制の整備と地域連携の充実を図る。
- (4) 進路に関する情報を積極的に保護者に提供し、体験実習等を通じて生徒の適性に応じた進路の実現に努める。

4. 安全で安心な学校づくり

- (1) 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育の推進に努める。
(人権活動、人権意識に関する肯定的評価(教員) R4 97.0%, R5 98.4%, R6 98.4%)
- (2) 大規模災害や防犯等への対応のために、マニュアル等の定期的な検証、及び安全対策・安全教育を推進する。
(防災対策に関する肯定的評価(保護者) R4 95.9%, R5 95.3%, R6 94.1%)
(防災対策に関する肯定的評価(教員) R4 92.5%, R5 97.7%, R6 95.3%)
- (3) 医療的ケアを必要とする児童生徒の安全で安心な教育環境の確保のために、校内体制の充実と関係機関等との連携を強化する。
(医療的ケアに関する肯定的評価(保護者) R4 95.5%, R5 95.3%, R6 95.9%)
(医療的ケアに関する肯定的評価(教員) R4 94.0%, R5 95.3%, R6 96.1%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
【保護者による自己診断について】 ・ 今年度から回答は、フォーム作成ツールを用いて二次元バーコードからの回答と紙面での回答の選択性とした。紙面で希望した家庭は6家庭。それ以外はフォーム作成ツールでの回答であった。 ・ 学習支援連絡網も利用し保護者向けへ提出協力のアナウンスを行った効果があり、 回答率は 81% であった。 ・ 「肯定的回答」が 90%以上の項目が 13 項目 (昨年度9項目)、 80%以上は1項目 (昨年度5項目)で、全体として昨年度より肯定的回答が多くなった。80%以上の項目も回答方法の設定不備で、医療的ケア対象者以外の家庭にも「必須回答」としていたため、「わからない」回答が 15%となった。回答2日目に気付き、「選択回答」とした。	<第1回>令和6年7月 12 日(金) ○学校概要(各学部)について ・ 医療的ケア児の保護者から、毎日の付添が負担で期間を短縮できないかという声を聞く。 ・ 卒業後の生活介護事業所について、複数個所の利用も増えてきている。デイサービスにおいても複数利用することが増え、サービスの内容によって事業所を選ぶケースが多い。 ○今年度の学校経営計画について ・ 防犯意識を高める対象は教員か、児童生徒か。 ・ 個別の教育支援計画を作成する際に、アセスメントを実施しているのか。また、作成者は誰になるのか。 ・ 働き方改革について、できることの限界はあると思うが、何かデジタル化を推進しているか。 ・ 地域の方との懇談の中で、進路の相談や見学希望があったが、「みのおしえん相談ルーム」の活用はどのようにされているか。

府立箕面支援学校

- 肯定的回答が増えた結果を受け、日頃の取り組みを進めてきたこともあり、保護者からの評価・信頼は概ね得られているのではないかと考えられる。また、回答しやすいように項目をより具体的にしたことも結果につながったのではないか。学校への期待は大きく、来年度も保護者と協力しながら「児童生徒一人ひとりのいのちの輝きを大切に」を合言葉に達成感や自己有用感を得られるような学校づくりを進めていきたい。 - No.4「学校は子どもが困っていること(いじめ等)があればすぐに相談することができる等、体制が整っている。」についてわからないと回答された方が4.6%(昨年度 12.8%、一昨年度 9.0%)と減少した。これまでわからないと回答した多くの理由が「いじめにかかわったことがないために体制が整っているかもわからない」、「子どもがいじめられているのかわからない」ということであったが、学校全体の取り組みやいじめ対策委員会の活動内容等を周知した結果、減少したと考えらえる。 - No.6「ホームページやマチコミを活用し、情報の発信によく取り組んでいる。」について肯定的回答が 95.4%(昨年度 90.5%、一昨年度 91.7%)と増加した。ホームページだけでなく、マチコミでの情報発信が受け入れられた結果ではないかと考えられる。今後も活用を続けていく。 - No.12「学校は子どものライフステージや発達段階に応じて、自分らしい生き方を実現していくための教育(キャリア教育)によく取り組んでいる。」について肯定的回答が 90.8%(昨年度 87.2%、一昨年度 84.8%)と増加した。日々の取組みがキャリア教育につながっていることへの理解が得られてきた成果と考えられる。引き続き連絡帳等で「どこでもカフェ」や「共同学習」等、各学部で連続性のある具体的な取り組みを周知していく必要がある。 【教職員による自己診断について】 - 今年度もフォーム作成ツールを利用したアンケート形式とした。回収率は97%(昨年度 98%)と連絡掲示板で周知したことや、未提出者には提出の依頼をした。 「肯定的回答」が 90%以上の項目が 17 項目(昨年度9項目)、80%以上は2項目(昨年度9項目、70%以上1項目)で全体として昨年度より肯定的回答が多くなった。 - No.1「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」について肯定的回答が 98.7%(昨年度 82.9%、一昨年度 79.1%)と増加した。昨年度までは「本校の教育活動について・・・」としていたが、今年度から「教育活動について・・・」と変更をした結果、身近なものとして捉えやすくなり、肯定的回答が増えたと考えられる。 - No.2「各年度のシラバス作成にもとづいて、各部、学年、教科、学習グループ等の授業計画を立てている。」について肯定的回答が 94.6%(昨年度 82.9%、一昨年度 87.3%)と増加した。また、No.13「学校は組織運営上、連絡掲示板やフォーム作成ツール、マチコミを使って効率的・機能的な業務改善に取り組んでいる。」についても肯定的回答が 95.3%(昨年度 79.8%、一昨年度 75.4%)と増加した。項目を具体化したことや、各校務分掌の業務見直し、フォーム作成ツール、マチコミの活用などが周知された結果と考えられる。今後も学校経営計画や学校評価、教育課題の取り組み内容について目に触れる機会を多くもつ取組みを行っていく。 - No.16「学校は自立活動にかかわる機器や設備を整備するなど、指導の充実に努めている。」について肯定的回答が 92.2%(昨年度 97.7%、一昨年度 96.3%)と減少した。大阪府学校運営経営推進費助成事業で行われた「パワー自活」の取組みから数年がたち、改めて周知が必要と考えられる。 以上の結果をふまえ、次年度主に取り組むべき内容として、以下の項目が考えられる。 (1)子どもの障がい理解、授業力・専門性を高める研修機会の充実 (2)新教職員 ICT ネットワーク・新校務支援システム(賢者)の使用方の理解と活用方法の定着 ① 教職員の「効率的・機能的な組織運営(業務改善)」に向けた取り組みの推進 ② 連絡や情報共有、連携ツールとしての活用	- 校内を見学し、先生方の楽しい環境づくりが素晴らしいと感じた。児童生徒たちにも役割があり、楽しく活動している姿を見ることができ、大変参考になった。 - 自分の子どもが通っていた時の学校とは大きく変わってきている。デジタル化の情報や学校活動に触れることができるのはありがたい。地域の保護者と交流する機会もあるので共有したい。 - 箕面支援学校は体験活動を重視されており、「本物に出会わせる」大切さを改めて感じた。 <第2回>令和6年 11 月 22 日(金) ◎学校経営計画の進捗状況について ○一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動の推進につて - 福祉の分野では個人の状況に関わらず、「自己決定」を支援することが大切になっている。気持ちを出しにくい生徒もいると思うが、個別の教育支援計画の中ではどのように汲み取っておられるのか。 - 活動の流れがうまくいっていれば、児童生徒の気持ちは快の状態になる。先生方はその状態も見て、活動内容を修正しながら学びを深めているのではないか。 - 福祉サービスを受ける際に、相談支援員との面談を行う。親への聞き取りの中に、今後どのような生活を送らせたいのか、この子にどうなってほしいのか、どのようなサービスが今後必要か等の問いがある。学校でも、保護者からの「ここまで向上してもらいたい」などの聞き取りが必要になるのではないか。 ○支援教育に関する高い専門性と授業力の向上について - スヌーズレンを導入したいと思うが、設置必要がかかることで難しい面もある。導入にあたり、工夫できることがあれば教えてほしい。 - ICT 関係が苦手な保護者もおられると思うが、学習支援連絡網での情報提供はすべての保護者が対象か。難しい保護者に別の対応をされているのか。 ○安全で安心な学校づくりについて - 様々な取り組みを横断的に実施できればと思う。たとえば「開かれた学校づくり」の観点で、「どこでもカフェ」と「相談ルーム」を掛け合わせるのも一つの方法ではないか。 40 周年記念行事の記念品は、卒業生の作品を使用すると聞いた。目の前の成果だけでなく、卒業生がどのような活躍をしているのか、中長期的な評価も視点として必要だと思う。 - 地域福祉の分野でも、家庭、学校、職場、事業所以外の「居場所」は重要なワードとなっている。障がいの有無に関わらず、安心して過ごせる場所が求められている。また、家庭に課題がある場合、放置したまま卒業すると長い将来の中で必ず課題を抱える。学校と福祉で情報を共有することが大切だと感じる。 <第3回>令和7年1月 24 日(金) ◎令和6年度 学校経営計画評価(案)ならびに令和7年度 学校経営計画(案)について 校長より変更点等を説明し、承認を得た。 - 肯定的評価が増えているのは非常に素晴らしいことである。本職場でも 200 人ほどの職員に対してアンケートを行っているが、60%台から 80%台になり喜んでいたが、保護者・教職員ともほとんどの項目が 90%台というのは凄いことだと思う。 - 私自身、学校に来る機会が多いが先生たちが意識を高く持ち、何かあればすぐに対策を講じているのがよくわかる。 - 近年、学校一丸となり課題に取り組んでいるのがよくわかる結果となっている。肯定的な回答が多いということは日ごろからの取組みが保護者と教職員とでしっかりと連携していることがよくわかる。 - 得意不得意があるので、教職員全員が同じことをできなくてもよいと思う。ただチームとしてカバーできているのかを問われる。そのあたりは、今後は評価の対象となってくるのではないか。 - 学校の場合、教職員の異動が多い。そのような時でも一定水準を「人」ではなくで「学校文化」として残しているのかを評価してもよいのではないか。他府県の学校で一定水準を「学校文化」が継承できていないケースも見えてきている。担当の教員がいたからできていたではなく、「学校文化」として残してもらいたい。 - 箕面支援学校も 40 年を迎え、過去にはいろいろな教職員の方々、保護者の方々が意見を出し合いながら、このように発展してきた。様々な親の会が存在するが、過去に比べてその数も減ってきている。そうなると、当事者の声が届かなくなり、支障が出てくる。当たり前が存在するのではなく、それを次に繋げていくためにはどうすればよいのか。一生懸命になりすぎず、力を抜きながらも続けていけるようになればと思っている。学校への要望も多方面から上がるかと思うが、教職員で話し合いをされながら続けていってもらいたいと思っている。 - さらにめざしたくなる保護者もいれば現状で十分と考える保護者もいるので、気持ちの感じ方はいろいろである。ただ、学年や学部が変わることで担任が変わり、できること、できないことがあるのは避けてほしいことが保護者としての願いである。
---	---

府立箕面支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 教育的ニーズを踏まえた 教育活動の推進	(1)キャリア教育の推進	(1)キャリア教育コーディネーターは、キャリア教育全体計画を推進する ア キャリア教育理解のための取組みの充実 イ 教育課程と連動させ、4観点(人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力)を組み込んだ授業シート(キラキラシート)の活用の推進 ウ 学びの連続性の構築のため、学部を超えての共同学習の推進	(1) ア キャリア教育コーディネーターによる研修を年1回実施 イ 共同学習や道德の授業の際にキラキラシートを活用し、すべての学部において「どこでもカフェ」を年1回以上実施 ウ 共同学習の開催(年3回) キャリア教育に関する肯定的評価(保護者)を88%以上[87.2%] キャリア教育に関する肯定的評価(教員)を86%以上[85.3%]	(1) ア 職員会議(5月)において、「キャリア教育の取り組み」についてコーディネーターより周知するとともに、キャリア教育研修(8月)を実施(○) イ 共同学習、道德の授業の際にキラキラシートを活用。どこでもカフェを各学部において実施(小中学部:6月参観週間、中学部2年:10/25 みのおライフブラザ、高等部:7/22 納涼大会、小中学部:1/31 40周年記念行事)(○) ウ 共同学習を年3回実施。(○) キャリア教育に関する肯定的評価(保護者)90.8%(○) (教員)92.2%(○)
	(2)個別の教育支援計画の活用の充実	(2) 個別の教育支援計画を活用した教育活動を推進する ア 一人ひとりの実態を適切に把握し、保護者と関係機関等と連携の充実	(2) ア 個別の教育支援計画を活用した実践 個別の教育支援計画に関する肯定的評価(保護者)88%を維持[88.5%]	(2) ア 個別の教育支援計画に関する肯定的評価(保護者)90.8%(○)
2 専門性と授業力の向上	(1)新学習指導要領に準拠した教育課程の編成に基づく授業実践への取組み	(1)新学習指導要領に基づいた教育課程を編成した授業実践をする ア 新教育課程に基づいた授業の実践	(1) ア シラバスに基づく授業実践を進めるとともに、7月に外部講師を招き、重度・重複障がいのある児童生徒の評価のあり方について研修する	(1) ア 7月26日に外部講師を招き、教科別の指導の実践例に対する評価や、自発的な動きがほとんど見られない児童生徒の評価について考える研修会を開催(○)
	(2)多様化する児童生徒への支援における教員の専門性や授業力の向上	(2) 教員の専門性や授業力の向上のための取組みを推進する ア 研究テーマに即した校内研修や様々なニーズに対応できる専門性向上研修の設定 イ 児童生徒1人1台端末活用など ICT 機器を活用した授業の展開 ウ 自立活動に関する機器 エ 生涯スポーツへの取組み オ スヌーズレンルームの活用(創立40周年記念行事に向けて)	(2) ア オンライン授業や ICT に関する校内研修2回以上の実施 イ 1人1台端末・視線入力機器・オンライン等を活用した ICT 授業の実践と取り組み内容を学校ホームページで発信 ICT 機器を活用した授業の実践に関する肯定的評価(保護者)88%を維持[88.5%] ウ 自立活動機器を活用した実践の定着 自立活動に関する肯定的評価(教員)95%以上を維持[97.7%] エ 体育や運動会においてのポッチャ・棒サッカー等への取組みの継続と各種スポーツ大会への参加を奨励 オ スヌーズレン(みのバックを含む)を活用した授業の充実と、記念行事に向け、体育館における大がかりな取り組みに挑戦 研修体制に関する肯定的評価(教員)87%以上[86.8%]	(2) ア 年間を通し、ICTに係る領域・情報研修を5回開催(○) イ 授業の実践と取り組み内容を、ICTにかかる内容を含め、学校ホームページにて年間16回発信(○) ICT 機器を活用した授業に関する肯定的評価(保護者)90.8%(○) ウ 自立活動に関する肯定的評価(教員)92.2%(○) エ 体育の授業で取り組みを継続し、支援学校スポーツ大会等に複数名の生徒が参加(○) オ 1/31、創立40周年記念行事において、体育館を会場にスヌーズレンの取組み(テーマ:『いのち』これまでの光から、これからの光に)を発表(○) 研修体制に関する肯定的評価(教員)89.9%(○)
	(3)教員の働き方改革や業務軽減を進めながら効率的・機能的な運営組織の構築	(3)組織運営の再構築をめざす ア 教員の活力向上と業務軽減を図りながら充実した教育活動を実現するための方策を検討	(3) ア 業務軽減をめざした校務の整理と役割分担の見直し 組織運営に対する肯定的評価(教員)80%以上[79.8%] ストレスチェックの総合健康リスクの値100以下を維持[96]	(3) ア メールによる欠席連絡や感染情報のデジタル化により業務改善ならびに情報共有が進んだ。また、学習支援連絡網の活用により、ペーパーレス化が進んだ。(○) 組織運営に対する肯定的評価(教員)95.3%(◎) 職場ストレスチェック総合健康リスク値96(○)

府立箕面支援学校

3 開かれた学校づくり	(1)学校情報の積極的な発信	(1) 情報発信の充実をめざす ア 「学校だより」「ブログ」等の積極的な発信 イ 保護者への文書配布をデジタル化し、欠席連絡やアンケート等の効率化(デジタル配信数 R4 63 回 R5 131 回)	(1) ア ブログ等の更新回数が 130 回を上回る [125 回] 学校ホームページに関する肯定的評価 (保護者)91%以上[90.5%] (教員)88%以上[87.6%] イ フォーム作成ツールを活用した、各種連絡やアンケート等を年間 135 回以上発信 [131 回]	(1) ア ブログ更新回数 131 回(○) ホームページに関する肯定的評価 (保護者)95.4% (教員)96.9%(◎)
	(2)地域における支援教育の専門性向上のためのセンタ－的機能の充実	(2) 関係分掌等は支援教育のセンター的機能の充実のための取組みを推進する ア 地域小中学校等への訪問相談(R4 112 件 R5 122 件) イ 地域小中学校等での校内研修講師の派遣(R4 19 名 R5 23 名) ウ みのおしえん相談ルーム(スマイル相談室)開設による地域支援の充実(R4 7件 R5 35 件)	(2) ア 訪問相談件数 100 件以上を維持[122 件] 市町の LT(リーディングチーム)と役割分担した効率的な支援 イ 外部研修への派遣のべ 25 名以上[23 名] 地域小中学校等のコーディネーター対象の研修実施を進め、チーム力を増強 ウ みのおしえん相談ルームの活用(月1回開催でのべ 35 ケース相談以上) 地域支援に対する肯定的評価(教員)93%以上[92.2%]	(2) ア 訪問相談件数は 60 件(△) 依頼数は減少しているが、市町の LT(リーディングチーム)との連携が充実し、支援学校にはより専門的な事例の依頼が増えている。 イ 外部研修への派遣のべ 28 名(○) 各市町の教育委員会と連携し、地域小中学校等のコーディネーターを対象とした研修を実施した。特に、箕面支援を会場とし、本校独自の教材や支援方法に関して研修を実施した。 ウ 相談件数のべ 10 ケース(△) 地域支援に対する肯定的評価(教員)94.6% (○)
	(3)校内支援の充実	(3) 校内支援の充実のための取組みを進める ア 相談専任者(校内支援担当 L・S)は、校内支援担当首席と連携しての地域関係機関との協働支援を推進 イ 心理士等の活用 ウ 日頃から教職員が本校の教育課題を共有し、話し合える風土、場づくりに努める	(3) ア 地域関係機関と協働し、保護者・事業所等からのニーズに応じたケース会の実施 イ 心理士等、専門職の活用による校内支援を 12 回以上実施[12 回] ウ 教育課題を日常的に話し合っていることについての否定的回答(教員)15%以下 [16.3%]	(3) ア 保護者、事業所等からの相談に応じるため、相談体制を整えて逐一実施できている(○) イ 理学療法士や作業療法士(2名)、言語聴覚士等の活用年 12 回(○) ウ 教育課題を日常的に話し合っていることについての否定的評価(教員)1.6%(◎)
	(4)進路指導の充実	(4) 進路情報の発信と生徒の適性に応じた実習の実施 ア 他の支援学校と連携した「日中活動事業所 相談・情報交換会」の開催 イ 生徒の適性に応じた体験実習の実施	(4) ア 豊中支援学校と連携し、進路にかかる「日中活動事業所 相談・情報交換会」を5月に1回開催 イ 保護者を対象として、課程別(普通・生活)に進路説明会を開催し、高等部2年生段階で希望による体験実習を実施	(4) ア 5/31 に豊中支援学校と連携し、「日中活動事業所相談・情報交換会」を開催(○) イ 9/9に高等部1年生普通課程保護者を対象に、9/12 に高等部1年生生活課程保護者を対象に進路説明会を実施。高等部2年生の体験実習を 26 回実施。(○)
4 安心で安全な学校づくり	(1)人権教育の総合的な推進	(1)人権啓発活動・教育の推進を継続する ア 児童生徒による人権啓発活動の継続 イ 研修および人権教育の実施 ウ 地域の小中学校への人権啓発活動(出前授業)の実施	(1) ア 児童生徒会の主体的な企画・運営による行事等の実施 イ いじめ対策についての周知 人権に関する研修を2回実施する[2回]とともに、「いじめ対策委員会」を学期に1回開催 ウ 箕面市内の小中学校を中心として「人権に関する授業」(出前授業)を実施 11 校以上維持[11 校] 人権尊重に関する肯定的評価(保護者)を 95%以上で維持[95.9%]	(1) ア 児童生徒会による学校行事(始業式、文化祭等)の司会進行をはじめ、昼休みのリクエスト音楽の取り組みや人権週間・人権タペストリーの企画・運営実施(○) イ 悉皆研修(西成差別、ホワイトボードミーティング)を2回実施(○) いじめ対策委員会を学期に1回開催(○)。 ウ 出前授業を 11 校において 18 回実施(○) 人権活動、人権意識に関する肯定的評価 (保護者)94.8%(○)
	(2)大規模災害、防犯にかかる具体的対応策の強化・推進	(2)大規模災害及び防犯への対応のための安全対策・安全教育を充実する ア 実践的な防災訓練の実施と検証 イ 校内への不審者侵入を想定した安全対策を実施	(2) ア 現実的な課題を想定し、避難訓練と引き渡し訓練を組み合わせた集中的な取り組みを年1回実施 防災アドバイザーの助言による検証(年2回)ならびに箕面市役所との連携会議(年1回)を継続して開催 イ 防犯への意識を高めるため、「防犯シミュレーション」を年1回実施 防災対策に対する肯定的評価(保護者・教員)を 95%以上で維持[95.3%・97.7%]	(2) ア 5/30 に引き渡し訓練を組み合わせた、複合避難訓練を初めて実施。 3/5に防災アドバイザー同席による防災会議、3/14 に箕面市役所との連携会議を開催(○) イ 4/4に教職員による防犯訓練を実施(○) 防災対策に対する肯定的評価 (保護者)94.1% (教員)95.3% (○)

府立箕面支援学校

	(3)医療的ケアを必要とする児童生徒の安全確保の推進	(3)高度な医療を必要とする児童生徒を含め、医療的ケアを必要とする児童生徒の安全な医療的ケアの実施を推進する ア 看護師のスキルアップを図る イ トランシーバー等を活用した、教員、養護教諭、看護師の連携強化 ウ 医療・福祉等関係機関との相互連携体制強化	(3) ア 巡回相談医の活用(年9回)や看護師研修会への参加促進 イ 看護師を中心とした円滑な連絡方法の確立と打ち合わせ会の充実(保健室とは毎日・医療的ケア部とは月1回以上) ウ 医療・福祉等関係機関を対象とした学校見学会を開催し、医師に教育活動の様子を見ていただく機会を設定する 医療的ケアに対する肯定的評価(保護者・教員)を 95%以上で維持[95.3%・95.3%]	(3) ア 巡回相談医を年9回活用し、看護師のスキルアップにつなげた。また、12/26に看護師対象の研修会(心身障がい児の泌尿器科疾患)を開催した(○) イ 人工呼吸器使用ケースについて、22台のトランシーバーを活用し、教員、養護教諭、看護師の連携に努め、迅速な対応ができた。(○) ウ 医療福祉等関係機関対象の見学会を4回開催 のべ50人以上参加(○) 医療的ケアに対する肯定的評価 (保護者)95.9% (教員)96.1% (○)
--	-----------------------------------	--	---	--